

在来魚によるブルーギル抑制効果

佐野聡哉（滋賀県水産試験場）

ブルーギル（以下ギル）は釣りやカゴ網などで簡単に捕獲できるが、繁殖力が強いため、駆除によって生息量を大幅に低減させることは容易ではない。一方で、在来魚がギルの卵および仔魚を捕食する事例の報告は多く、天然水域で在来魚が増加すればギルの繁殖が抑制される可能性がある。本研究では、ホンモロコおよびニゴロブナによるギルの繁殖抑制効果について評価した。

実験 1 底に砂利を敷いた屋外飼育池（4m×2m×水深 0.3m）4 面に、成熟したギル雌雄各 5 尾をそれぞれ収容した。その内 2 面はホンモロコ 30 尾とニゴロブナ 10 尾を加えたモロコ・フナ区、残る 2 面はギルのみの対照区とし（図 1）、ギルの産卵期の 3 か月間飼育した。モロコ・フナ区ではホンモロコがギルの産卵床を執拗に襲うところが観察され、ギル稚魚の発生が抑制された（図 2）。

実験 2 池の規模を拡大し（池：8m×5m×水深 1m、）収容する供試魚の尾数を 2 倍にして実験 1 と同様の実験を行った結果、実験 1 と同様にモロコ・フナ区でギル稚魚の発生が抑制された（図 3）。

実験 3 ホンモロコまたはニゴロブナを収容した水槽にギル仔魚（TL 約 10mm）を投入したところ、2 日間に多数の仔魚が消失し、両種が捕食したと考えられた。

曾根沼（滋賀県彦根市）では、駆除によりオオクチバス成魚を大幅に減らしたことで、ホンモロコなどの在来魚が増加した。このよ

うな水域では、今後在来魚によってギルの繁殖が抑制されることが期待される。

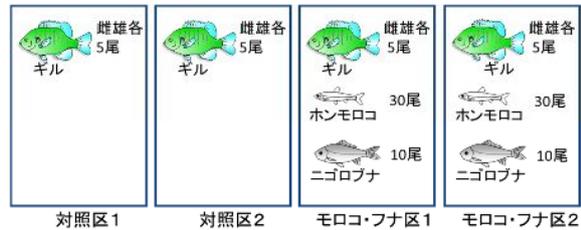


図 1 実験 1 の概要
（実験 2 では供試魚をそれぞれ 2 倍にした）

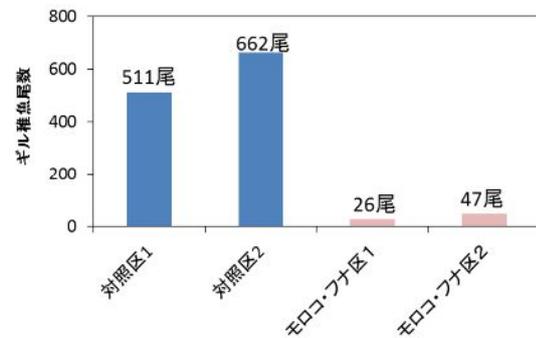


図 2 実験 1 終了時に池から取り上げたギル稚魚の尾数



図 3 実験 2 終了時に池から取り上げたギル稚魚の尾数

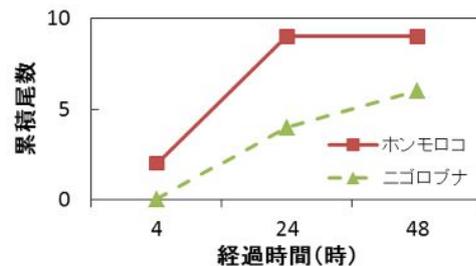


図 4 実験 3 で消失した（捕食されたと考えられる）ギルの尾数